

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300680		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム七宗		
所在地	岐阜県加茂郡七宗町川並630-1		
自己評価作成日	平成24年1月9日	評価結果市町村受理日	平成24年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171300680&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に掲げているように、利用者様自身にやっていただく事、選んでいただく事を大切に日々の介護を行っている。また、自然に恵まれた環境で、近隣の方のご好意で山菜摘みや、茶摘をさせていただいている。また、気軽に喫茶が利用できるように、エリア内でボランティアの方が行っている喫茶に出掛けている。旅行を実施する等、施設に入居してしまった事で今まで行ってきた事が制限されてしまった(出来なくなってしまう)と思う事が一つでもなくなるように利用者様の支援を行っている。梅干し、干し柿作り等の馴染みの習慣や、花見、虫鑑賞等の季節感を肌で感じられるような行事を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

恵まれた豊かな自然環境をうまく活用し、地域の人達とともに馴染みの関係を大切にしながら家庭的な生活様式を継続し、生き生きと安らぎのある暮らしを提供している。職員は、利用者一人ひとりに合った暮らし方を大切に、自分らしく生きられるよう、優しく支えている。さらに、機能が低下しても、その人らしく、もてる力が発揮できるよう、行動を制限せず、自分で選択できるように支援している。法人の組織力を活かした職員教育を充実させ、質の高い介護を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自分でできること、自分で選ぶことを大切にすること』という運営理念を事業所に掲示し、毎日の介護の中でどうしたら利用者様にしているのか、選んでいただけるのか、また、それを地域とのかかわりに繋げられるのかを考えながら行っている。	地域の中でその人らしい生活を続けられるように「自分で出来る事・自分で選ぶ事」の理念を、事務所内に掲げ、共有している。さらに職員会議でも確認し、利用者本位のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流、町の図書館の利用、町で開催される生涯学習まつりへの作品の出品、産業祭や発表会の鑑賞、地元の店を利用したりして、少しでも多くの方と交流が出来るように心掛けている。	地域の商店や町の図書館の利用、保育園との交流、中学生の福祉体験の受け入れ、生涯学習や祭り、地域毎にある「茶話会」などへの参加等、積極的に地域との交流を行っている。地域に向けた通信も発行している。	子どもたちを対象にした課外教育の構想がある。子どもたちと日常的な交流を通し、地域ネットワークの広がりに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事や店等に出掛け、地域の方に認知症の理解をしていただけるよう努めている。中学生の福祉体験の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様と触れ合う時間(行事への参加、作品製作等)を設け、利用者様の身体・精神状況を知っていただき、その後、サービスの報告を行い意見をいただいている。それを介護に活かしている。	運営会議は2ヶ月に1回開催され、自治会役員・行政の担当職員・民生委員・家族の代表の参加を得て、事業報告や意見交換を行っている。地域で行われている出前講演やふれあい活動の一つ「茶話会」等に参加し、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故や入院、入退所の報告をしたり、役場に出掛けた際には近況を報告している。	日頃から、事故や入院、入退居の報告等を役場まで出向いて積極的に伝え、協力関係を築いている。運営推進会議に出席した担当者へは、その都度、運営状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にかかわるマニュアルがある。玄関は見守りが十分に出来ない場合を除いては常に開錠しており、万が一出られた場合でも直ぐに呼び止めるのではなく、見守りをし様子を伺っている。	身体拘束に関するマニュアルに基き学習を行い、拘束のないケアを実践している。玄関は通常開錠しており、見守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実践者研修受講者は学んでいる。また、研修を受講した者が他の職員に伝達研修を行っている。法人でマニュアルを作成している。虐待と見受けられる行為があれば管理者に報告し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在活用しなければならない利用者様はいない。職員は研修で学んでおり、研修を受けた者は伝達研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、疑問な点があれば納得がいくよう説明を行っている。改定の際は家族会で説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情受付の案内を行っている。また、面会時に伺う事もある。意見等あった場合には職員会議やエリアでの会議で検討し、議事録や申し送りノートに記入し、職員全員周知できるようにしている。	毎月の通信により、ホームでの暮らしを報告し、家族からの意見や要望を求める欄を設けている。また、家族の面会時にも意見を聞いている。意見・要望等には、速やかに対処できる仕組みを取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議での意見交換、意見・提案があれば話し合う時間を設けている。	毎月の定例会議には法人幹部も参加している。また、日ごろの申し送り等で職員が介護の気づきや要望を気軽に出せる環境を整えている。介助方法・排泄時の工夫等を改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度終わりの自己評価も参考にして職員の勤務状況を把握している。また、本人の望む研修に参加できるよ勤務を調整したり家庭の事情を考慮し勤務を組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた法人内の研修に参加したり、一般の研修やセミナー等、興味のあるものについては、参加できるよう勤務の調整を行い、質の高いサービスの提供が出来るように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域内には同業者がない為、法人内のグループホーム7ヶ所で2ヶ月に一回、向上委員会を開催しサービス提供に関する情報交換、勉強会を行っている。また、合同で行事を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前や入居時、利用者様や家族様から直接聞き取りを行い、入居してからは本人様と関わりながら、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の症状等を伺い、具体的にどんな事で困っているか、また、どのような要望があるのか話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞き、利用者様、家族様の立場に立って利用者様の「その時」を見極め、何が今一番必要な状況であるのか、見極め、助言、対応している。サービスの利用に当たっては上司に報告、相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のコミュニケーションの中から、お互いの生活習慣や行事等を共有しながら関係を築き、学ぶ姿勢をもち一方的な介護にならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただけるようお願いをし、家族参加の行事を取り入れ、一緒に過ごしてもらう時間を設けている。毎月、近況を報告し、カンファレンスにも出来る限り参加してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接するデイサービスセンターを利用している知人や近隣に住んでいる方との交流や、年賀状等のやり取り、地域の行事や店等に出掛けるようにしている。	友人やデイサービス利用している知人とは、地域サロンの茶話会に参加し、馴染みの関係を継続している。地域の商店や食堂、茶の小売店・祭り等に出かけ、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	高度の難聴の利用者には職員が間に入り、他の利用者様との間を取り持っている。また、レクリエーションを行う時、利用者様同士で誘い合ったり声を掛け合っている。誕生日を皆で祝ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居後も、必要に応じて利用者様の情報交換をし、また、エリア内の特別養護老人ホームに入所された場合、訪問し言葉を掛け等心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は個人のケースに記入し、職員全員が把握できるようにしている。思いを伝えられる方に関しては希望に沿える様努めている。困難な方に関しては、今までの生活状況や身近な方からの情報を得、見つけ出している。	ゆっくりと寄り添う介護の中から、暮らし方や趣味や新聞広告を話題に提供し利用者ごとに記録し、把握に努めている。困難な人は表情や態度・言語・家族からの情報等により把握している。一人ひとりを深く理解することを大切に、情報を共有し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を一部活用し情報を収集している。日常会話の中からだけでなく、家族様や知人からも収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた事はケースに記録し、状態に変化の見られる方は、常に申し送りを行い職員全員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様が面会にみえた時に話を伺ったり、出来る限り、本人様、家族様にもカンファレンスに参加していただいている。また、モニタリングは職員の意見を聞き、毎月行っている。	本人・家族・担当職員・在宅介護支援センター(看護職員)がケア会議に参加し、話し合っている。介護記録を基に、職員会議において意見を求め、ケア会議の内容を活用し介護計画を作成をしている。モニタリングは毎月行っている。利用者の状態に応じて柔軟に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録を行い、気づきや工夫は分かりやすい様な記入方法になっている。また、モニタリング意見用紙により、職員間の気づきや意見を記入できるようにし、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様に代わっての受診の付き添いや、利用者様の個人的な外出の送迎を行っている。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本が好きな利用者様には地元の図書館を利用していただいたり、行きつけの美容院に出掛けられるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居前にかかっていたかかりつけ医がほとんどである。家族様の希望で定期的に往診していただいている利用者様もみえる。また、緊急時に往診をお願いする時もある。定期的に訪問歯科にかかってみえる方もみえる。	入居前からのかかりつけ医を継続している。定期受診は原則家族による対応としているが、往診を受けている利用者もいる。緊急時にはホーム職員が同行し病院で家族と待ち合わせるなど、柔軟に対応し適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接するデイサービスセンターの看護師に相談したり、診ていただいている。また、エリア内のグループホーム七宗担当の保健師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	木沢記念病院の地域連携室の職員や岐阜大学病院ケースワーカー等と連絡を取り、情報交換をしている。また、直接利用者様と面会し、担当看護師に話を伺う事もある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の病状の変化には、家族様、主治医との連絡を密に取り今後の対応方針、緊急時の対応を相談。家族様と話し合い、利用者様、家族様の意思の確認を第一に支援している。また、重度化した場合も意向を重視し主治医の診断に従い支援する。	重度化や終末期に対するホームの指針があり、契約時に家族・本人へ説明している。段階的に家族や関係者で話し合い、家族や本人の意思を第一に、「自分で食べる事が出来、ホームでの生活が可能な状態まで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年一回の救命救急講習に参加し、年2回、隣接するデイサービスセンターとの合同の防災訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜の防災訓練を行っている。運営推進委員の方にも訓練に参加していただいている。	年に2回、消防署の指導の下、防災訓練や避難誘導を行い、夜間を想定した訓練も組み込み、隣接のデイサービスと共に合同で実施している。関係機関や地域との緊急時の通報や協力体制も築き、備蓄品も用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちになり、不愉快にさせないような言葉掛け、対応に心掛けている。また、周囲も配慮するようにしている。例えばトイレに誘う際には遠くから大声で誘わない、何かに失敗されたら何気なくフォローをしている。	利用者の個性や自己主張を大切に、思いに寄り添い、心地よい対応を心がけてケアをしている。利用者を人生の先輩と敬い、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念にも掲げているように自己決定する事を大切にしている。思いや希望を表せるよう、また、自己決定できるような言葉掛けに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の心身状況を把握し、個性を大切にしている。また、本人の意思を確認し支援している。朝が苦手な方にはゆっくり休んでいただいたり、昼寝や入浴等本人の意思を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容室を利用し、毛染めやパーマ等本人の希望で行っている。また、なじみの美容室が利用できるよう支援している。化粧を希望される方にはしてもらったり、衣類も出来る限り選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	エリアの栄養士が作成した献立に利用者様の好みや旬な物、郷土料理や行事食を取り入れ、自分の好きなものを目の前で取り分けたり工夫している。個人の能力に合わせ準備や片づけを利用者様と一緒にやっている。	郷土料理(へぼめし・ししなべ)や行事食を多く取り入れ、利用者の体験や調理の工夫や知恵を活用し、対面式の台所で、職員と一緒に、会話を楽しみながら食事作りを行っている。利用者の出来る力を活用し、当日の新聞広告からも調理のヒントを得て、要望を聞き、献立に役立てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	エリア内の栄養士に変更した献立表を提出、栄養バランスをチェックしてもらう。こまめに水分補給ができるようお茶の作り置きやポカリスエット等を常備。水分の摂れない方は飲み物の種類を変更、時間をおきすすめる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、能力に応じた支援をしている。週に1回ポリドントによる義歯の洗浄を行っている。歯科衛生士による週1回のケア、月1回の診察を行っている利用者様もみえる。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日の排泄時間を用紙に記入し、職員が情報を共有し、個別に排泄対応、誘導を行っている。夜間も誘導を行い、オムツを使用しなくてもよいように支援している。失禁予防の体操を行っている利用者様もみえる。	排泄の自立に向けて失禁予防の体操をしたり、おむつの使用量を出来る限り少なくするように、夜間もトイレ誘導を行っている。排泄チェック表を活用し、一人ひとりの表情・動き・態度からもタイミングを計り、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、朝食に乳製品を取り入れ、こまめに水分補給を行っている。日中は身体を動かす支援や、トイレ誘導時、腹部マッサージを行っている。便秘気味の方は主治医に相談し下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人に希望を聞き、昼夜入浴を行っている。毎日入浴したい方には毎日入浴してもらっている。出来る限り本人が入浴したい時に出るようにしている。昼間の入浴も急がせずゆっくり入浴できるよう心掛けている。	入浴は隔日の午後の時間帯に行い、利用者の希望により、時間は決めず、柔軟に対応している。ゆず湯など季節を取り入れ、ゆったりした気分を大切に支援している。希望により毎日の入浴も出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後問わず、本人が希望されれば臥床していただいている。朝起床できない方については、本人の意思に任せ見守りを行っている。室内の湿温度・明るさ・換気等の調整を行い、不快感を与えないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケースに処方箋を綴り、処方に変更があった際には申し送りをし直ぐに新しい情報が得られるようにしている。確実に服薬ができるよう、配って飲み込むまでを確認しチェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の趣味や仕事、生活ぶりの情報を得て、野菜・花を育てたり、調理、掃除等を行っていただいている。本人の希望で、本を借りに出掛けたり、知人に会いに出掛けたり、ドライブを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や希望にそって、1日1回でも屋外に出られる様、気候の良い日は散歩に出掛けたり、買い物、ドライブ等個別の希望にもそえる様努めている。家族様にも協力をお願いし、外出する機会を設けている。	利用者の体調やその日の天候に合わせて、散歩等に出かけている。個別の希望に沿った買い物やドライブ等にも、家族の協力を得て、支援している。	

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームの事務所にて管理している。スーパーでの買い物では、利用者様に支払いをお願いしている。外出の際には個人のお金を持参し、自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるようになっている。電話を希望される方には職員が傍で支援し話をさせていただいている。また、暑中お見舞いや年賀状を家族様や知人に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ばかりではなく、浴室・トイレの温度管理にも気を付け、不快にならないようにしている。同じような戸ばかりの為、浴室・トイレ、居室を間違えやすい方の戸には大きな字の張り紙をしている。四季に応じた花や飾りつけをし、季節感を出している。	適切な空調管理により、心地よい空間作りを行っている。年中行事に合わせた飾り付けも行われている。天井が高く開放感があり、ゆったりしたソファや大きな観葉植物が配置され、居心地の良く暮らせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも椅子、ソファを置き、いつでもくつろげる様にしている。また、居間の棚にはいつでも使用できるように本や折り紙、色鉛筆、ボール等の余暇道具が置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際使い慣れた物や、今まで本人の部屋に飾ってあった物、大切な物を持ってきていただくようお願いしている。また、居室担当者が利用者様と一緒に、作った作品を飾ったりしている。	居室の入口には好みのデザインの表札がかけられてあり、使い慣れた鏡や整理タンス・写真が持ち込まれ、作品を壁に飾り、自分らしさを大事にした雰囲気作りが行われている。掃き出し窓で開放的であり、居ながら四季が感じられ、落ち着ける居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、分りづらい場所には大きな字の張り紙をしている。居間の棚には本や折り紙、色鉛筆、ボール等の余暇道具が置いてある。日付が分りやすいよう大きな日めくりを掲げている。		